

3 同音異義語に注意して使う習慣化を図る指導について（5・6年）

<p>【板書事項】</p> <p>図る(意図や工夫) ・ 解決を図る ・ 合理化を図る ・ 便ぎを図る</p> <p>測る(長さや面積) ・ 面積を測る ・ 距離を測る</p> <p>量る(体重、かさ) ・ 体重を量る ・ 分量を量る</p> <p>計る(数や時間、計画) ・ 時間を計る ・ タイミングを計る ・ 将来を計る ・ 計りしれない</p>		
<p>【指導の流れ】</p> <p>1 グループごとに同音異義語について調べ、まとめさせる。</p> <p>「グループで調べたい言葉を決めたら、国語辞典で調べ、画用紙に、言葉の意味と用例をまとめましょう。各自、国語辞典や漢字辞典を使って、できるだけ多くの用例を取り上げて、みんなのためになるまとめにしましょう。」</p> <p>2 教室掲示し、常に目に触れさせるようにする。</p> <p>3 漢字テストをする時に、繰り返してこのカードの中から出題し、同音異義語や同訓異字の日常的な定着を図るようにする。</p>		
<p>【留意点】</p> <p>1 同音異義語や同訓異字については、教科書の各単元末の「てびき」で取り上げられていることが多いので、その都度、しっかりと指導する必要がある。また、「てびき」で取り上げるだけでは定着しないので、グループでまとめた画用紙を教室に掲示したり、その中から漢字テスト問題として出題したりするなどして、日常的に取り組んでいくとよい。</p> <p>2 他教科の授業でも、同音異義語や同訓異字が出てきたときは、掲示されているカードに注目させて、折に触れて復習するようにする。</p> <p>3 朝のスキルタイムなどの時間を活用してもよい。</p>		